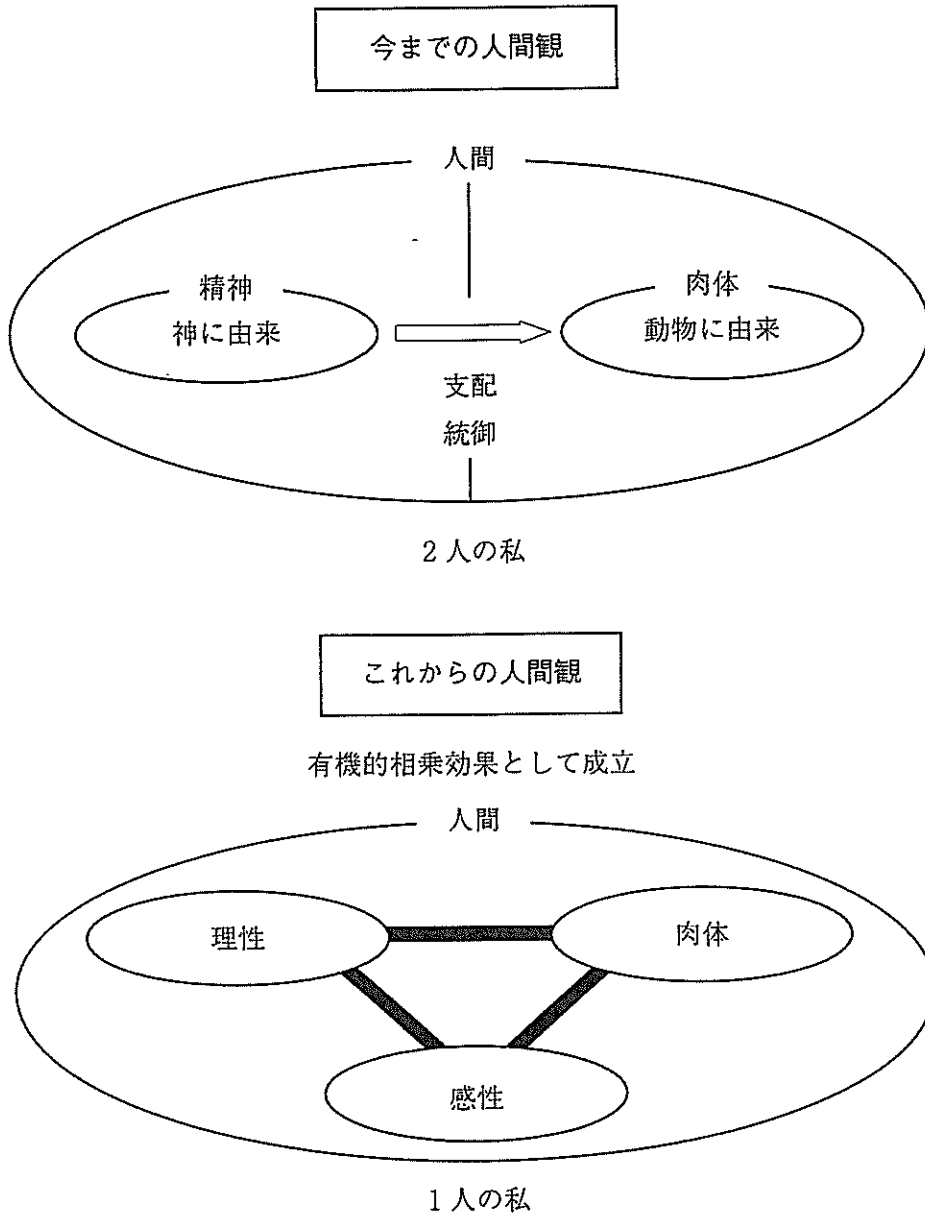


図4 今までの人間観とこれからの人間観



一・ 従来からの二元論的人間観の概要と発生原因

これまでの人間観に共通している事は、精神と肉体のどちらかが人間の根元だという二元論的な人間観を前提として人間や世界を見ている、という事です。イメージとしては、次のような図になります。

三、平衡作用（三作用）の体系と真・善・美の関係

図5 平衡作用（三作用）の体系と真・善・美の関係図

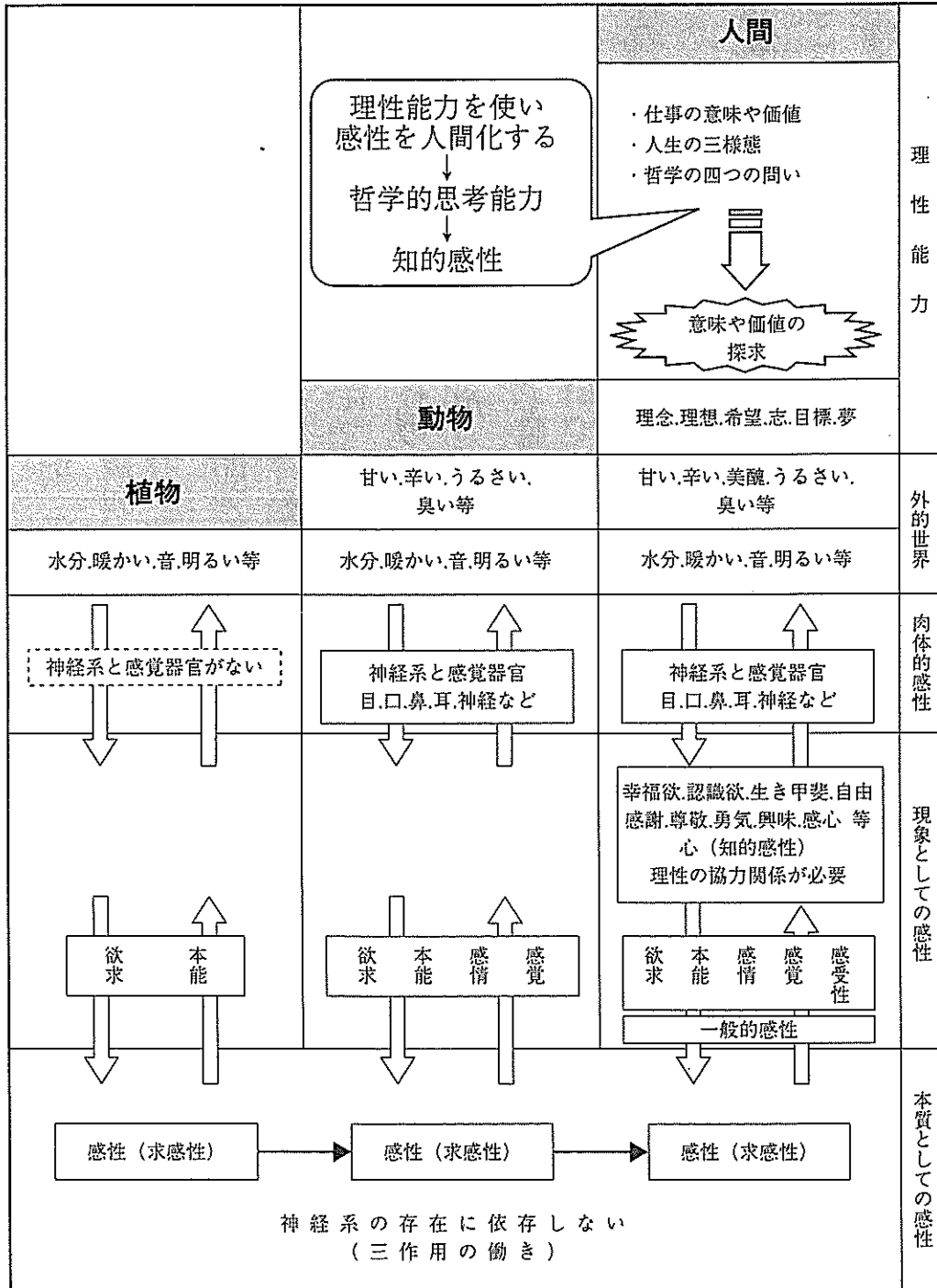
本質としての感性			
統一作用	合理作用	調和作用	平衡作用 (三作用)
美	真	善	各作用の 意識
全体を一個の命としてまとめ上げる変化の中で統一した状態を求める	目的を実現する為の最適な方法を模索する働き	人間関係や環境との調和新陳代謝	内容
仕事における 「カン」「コツ」 自然治癒力 良心 人格など			三作用が現象として総合的に現れたもの

図21 哲学・科学・宗教の比較表

	哲 学	科 学	宗 教 (実践としての)
対 象	無前提の世 界の全体。 意味世界。	一定領域の 事実。 事実世界。	神仏を中心 とした世界 の全体
目 的	窮極的な意味を もつ実在の探究。 人生観、世界観 の樹立。	事実世界の 因果関係の研究。 事実の体系の 樹立。	神仏による人間 の救済とその証 明。
方 法	論証的。 論理により正し い厳密な使用。	実践的。 数量的記述的に 処理。	実践的。 神仏に対する善 なる行為。
構 造	創造的。 たての論理。 意味の窮極的 原理と現象との 立体的把握。	発見的。 横の理論。 事実と事実との 関係を示す。	本質直観によつ て神の存在を確 信し、神と人間 との間に行為的 因果関係を確立 する。
立 場	自己(自覚) 反省的。 包摂的。	即対象的。 真偽択一的。	没我的信仰。 個性的確信。 排他的。 絶対的。
原 理	根元的。 普遍的。	一面的。 客観的。	被主体的。 超越的。

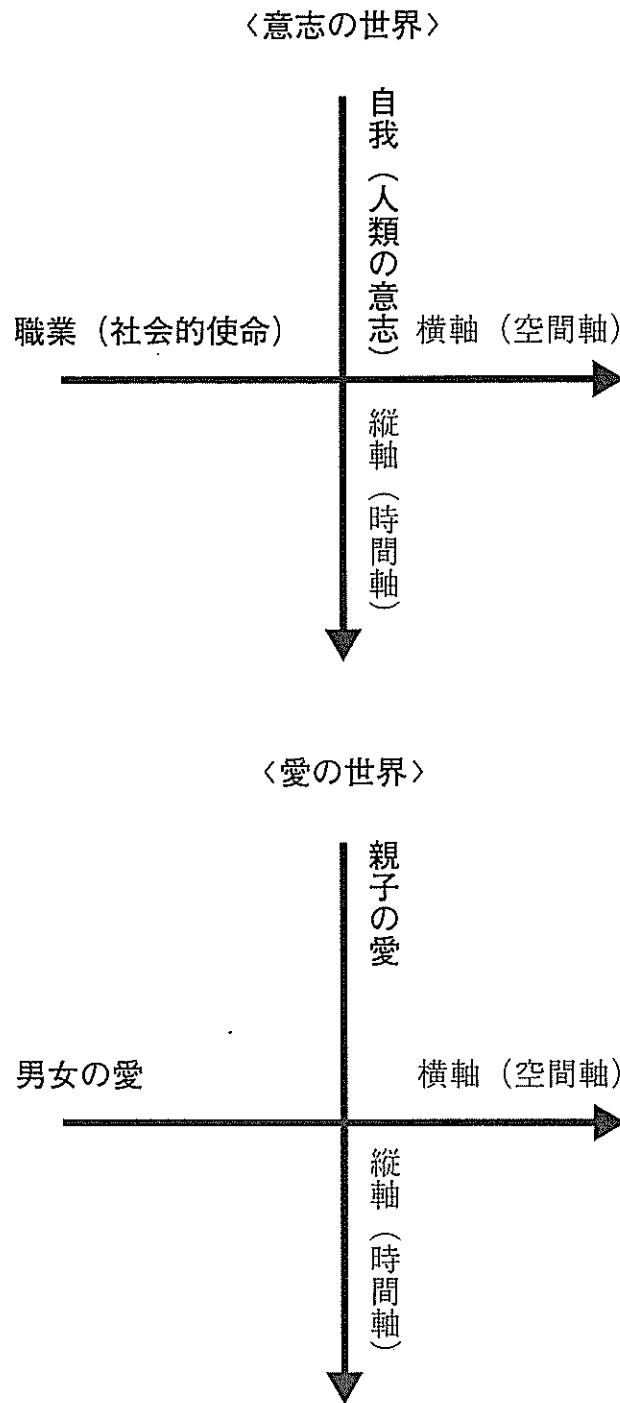
① 五、感性の構造
感性の構造のイメージと理性との関係

図6 感性の構造のイメージと理性との関係図



第二節 人生の目的は「意志」と「愛」の二つしかない

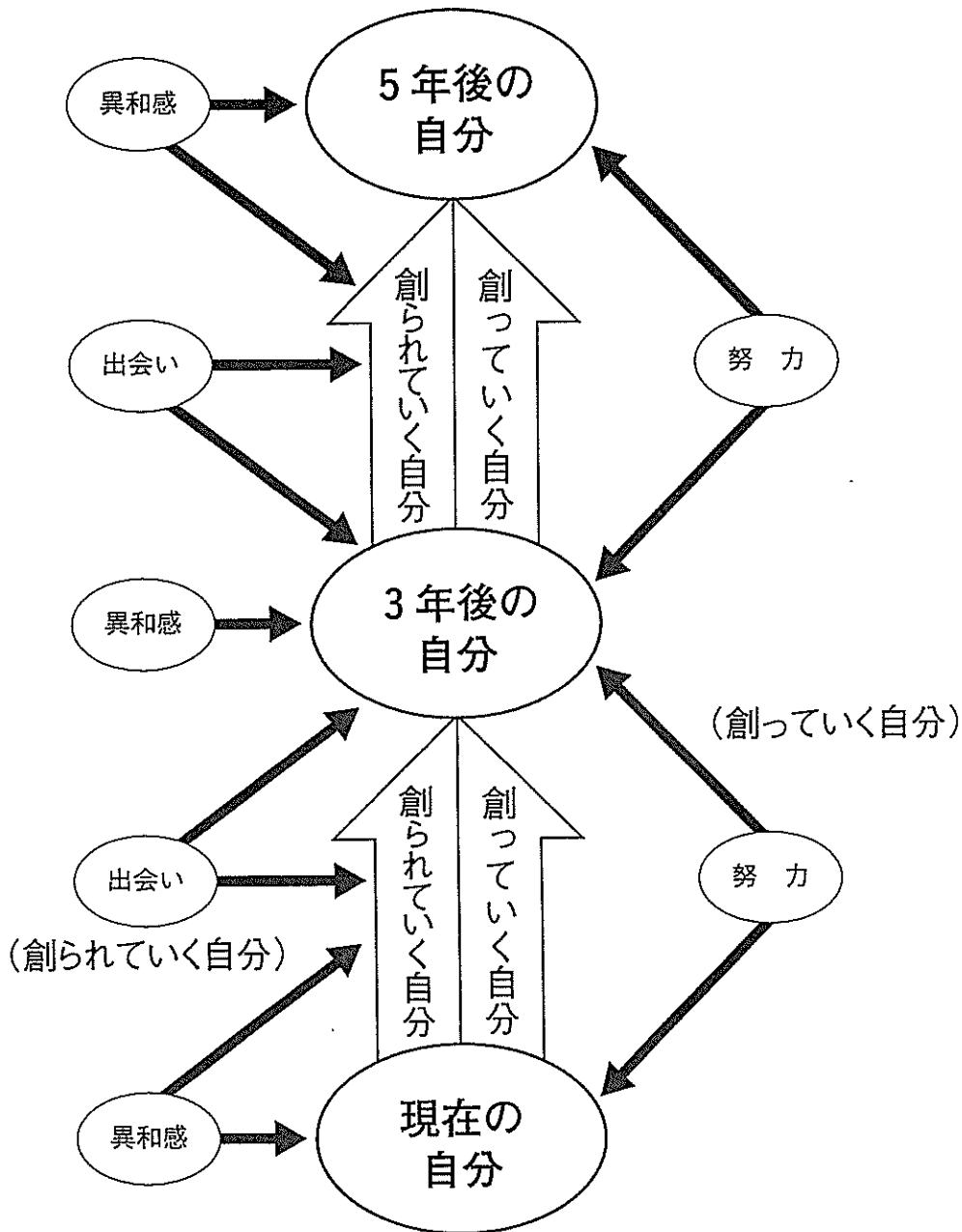
図7 意志の世界・愛の世界



一・人生は意志と愛のドラマである

まずは、人生の目的は二つしかないという事を知ってもらわなければならない。命は感性によって保たれ、その感性から生命の自己保存欲求と種族保存欲求が湧いてきます。生命は、この二つの欲求を実現する事を目的として生きています。これは、アメーバから人間に至るまで、全ての生命が命の内面において持っている目的です。

図8 実現すべき自己は変化し成長していく自己である。



変化し成長していく自己は理性では
掴めない。感性と直感で掴む。